



災害の備えについて

伊勢崎商業高校 大野 嵐 (おおの らん)



投稿者 大野 嵐さん

この度は、実際に現場で活動されている自衛隊の皆様から普段の生活ではあまり意識することのない災害の備えについて、講話と実技指導をしていただき、とても貴重な経験になりました。最初は「自衛隊は国を守る行動」という印象が強かったのですが、災害時に人々の命を守るために行動している存在でもあると知り考え方が大きく変わりました。

講話の中で特に印象に残ったのは「七十二時間の壁」という言葉です。災害が発生してから3日間で生存率が大きく変わる重要な時間であり、その間に助けを待つだけでなく事前に用意した防災グッズを活用するなど自分たちで出来る行動をとることが命を守ることに繋がると学びました。また、災害は地震だけでなく火災や津波などと複数の危険が重なって起こる「複合化」があるという話も心に残りました。災害は一つの対策だけでは不十分で日頃から幅広い備えをしておく必要があると感じました。さらに「自助・共助・公助」という考え方も学びました。自分の身を守る自助が基本であり、その上で地域や周囲の人と助け合う共助が重要であることを知りました。自分一人の力には限界があるからこそ普段から人との関りを大切に、協力できる関係を作っておくことが災害時の大きな力になると思いました。

実技では、止血方法やロープの巻き方を体験しました。止血ではタオルを使うことで強く縛ることが大切だと分かり実際に使うと想像以上に難しかったです。ロープを使った救助も結び方一つで安全性が大きく変わり正確さが求められることを実感しました。

今回の講話と実技を通して、災害への意識を改めることができました。災害は時間と場所を選ばず日頃から備えを行い、いざという時に自分や周囲の人の命を守る行動ができるようにしたいです。このような貴重な学びの機会を大切に、災害への意識を変えていきたいです。

危機管理から学ぶ

伊勢崎商業高校 宮原 優月 (みやはら ゆづき)



投稿者 宮原 優月さん

私は今回の講話を振り返って、災害に対する自分の危機管理の意識が大切だと思いました。何十年、何百年に一回の災害が近年多いと知り、講話を聴き自分にも出来るのか考えることが出来ました。スライドを見て、災害は自分たちが思っているより遥かに恐ろしいものだと感じました。助かっても、生活支援を受けて暮らしている人がいることを知りました。自衛隊の方々は、給水・入浴支援だけでなく、被災者に寄り添い助けてくれる唯一の自己完結能力がある組織だと知り、かっこいい存在だと思いました。群馬県は、比較的災害が少ないですが、起こったときに適切な対応がとれるよう知識をつけ、実行できるようにしていきたいです。「自分は大丈夫だろう」という意識から「危険かもしれないから避難しよう」という考えを持つようになりたいです。

私が通っている伊勢崎商業高校は備蓄倉庫が設置されています。災害が起こったときの避難所になっているので、段ボールベットの組み立てをして、その時は通路を作るなど教わったことを生かせるようにしたいです。避難するときの防災グッズを家族で共有し、最低でも三日分は用意しておこうと思いました。実際に止血法や担架を運んだり、ロープの扱い方を学んだりしました。それぞれ重要なポイントを押さえればやり方は簡単だと思ったので、あとは「自分が行動する勇気を持つ」と思います。

このような講話や実技の体験を通して、被災地の現状や自衛隊の方々の取り組みを知ることが出来ました。災害はなくすることは出来ないで、被害を最小限に抑える工夫をし、まずは「自助」からそして、「共助・公助」と助け合いの輪を広げていきたいいなと思います。

今回は、このような講話を開いていただきありがとうございます。この講話から学んだことを忘れず、実践できるようにしたいです。

防災力の向上を目指して

～群馬県立伊勢崎商業高校で防災講話・実技を体験～

2等陸曹 早坂 健治



代表生徒からのお礼

自衛隊群馬地方協力本部前橋募集案内所(所長 2等陸尉 土屋 章)は令和8年2月9日(月)、群馬県立伊勢崎商業高校において3年生約230名を対象とした防災講話及び実技体験を行いました。

講話では、過去の災害による被害状況の解説、危機管理の重要性及び防災グッズの紹介や「自助・共助・公助」の理念など過去の災害から学ぶべき教訓を中心に講話を行いました。

実技では、災害だけでなく日常生活でも活用できる技術としてロープワーク・応急担架の作成・止血法を行いました。

ロープワークでは溺れている人の救出を想定し、本結び・止め結び・8の字結び・仲仕(なかし)結びなどを体験してもらいました。

身近にある毛布や棒を使った応急担架の作成では、グループごとに協力しながら実際に人を搬送するまでを体験しました。

最後に止血法など命に関わる応急処置について体験し、生徒たちは真剣な表情で取り組んでいました。

参加した生徒からは「災害時に役立つ知識を身に付けることができ自信がついた」、「ロープ一本でこんなに色々なことができるとは思わなかった」、「自衛隊の方は国防だけでなく災害派遣もしてくれていると知りありがたいと思った。」などの感想が寄せられました。

高校生という若い世代に防災意識と実践的技術を伝えることで、地域防災力の向上に貢献できたと実感しています。前橋募集案内所は、今後も地域に根ざした広報活動を継続してまいります。